

聖性への招き



◆ イエスが教えられた通りに生きる

ペテロの第一の手紙では、「あなたがたを召された聖なる方に倣って、あなたがた自身もあらゆる行いにおいて聖なる者となりなさい。聖書に、『わたしは、聖なる者である。あなたがたも聖なる者となりなさい』と書かれています」（1ペテロ 1:15~16）。イエスは、聖性について思い巡らすように招いておられます。

さて、「聖性」とは何でしょうか？それは、「神様のようになること」です。神様は、人間になりましたから、聖性は、「イエスのようになること」です。どのように「神様のように」「イエスのように」なることができるのでしょうか？それは、イエスが言われた通りに生きることによってです。イエスは、こう言われました。「あなたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る」（ヨハネ 14:15）。ユダヤ人であるイエスは「掟」という言葉を使われました。しかし、「愛」を命令することができのでしょうか？

イエスの掟は、私たちへの神からの嘆願です。「お願いします。これをして下さい。私は、あなたを自由に愛したいのです」と。イエスの掟は、イエスの平和と喜びと幸せを望む人にとって、どのように生きれば良いかという解き明かしです。イエスの掟は、人生の取扱説明書なのです。

では、イエスの掟とは、何でしょうか？「あなたは、心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。また、隣人を自分のように愛しなさい」（マタイ22:37~39）とあります。

イエスの掟は、いくつあるのでしょうか？二つのように見えますが、実際は三つです。それは、「神様を愛すること」「人々を愛すること」「自分自身を愛すること」です。「自分を愛しているように隣人を」と言われています。イエスの教えは、80~90%位「どのようにして、神と人々と自分自身が一つになることができるのか」ということについてでした。また、その三つの関わりの中で起こる分裂や不調和に対して、「どのように対処して打ち勝つか」ということについてでした。ですから、その三つの掟を一つずつ見てみましょう。

◆ 3番目の掟

3番目の掟は、「自分自身を愛すること」についてです。どのように自分自身を愛したらよいのでしょうか？ 7つの方法について、お話ししたいと思います。

1. 悔い改め： まず、イエスは、自分を愛するためには「悔い改めなければならない」と言われています。一体、私の内に何が神と人々と自分自身を愛することを妨げているのでしょうか？何が神ご自身を私に完全に与える事を邪魔しているのでしょうか？「回心」とは、その妨げている部分を探して、神様に明け渡すことです。もちろん、「心の傷」も障害となりますから、私たちには癒しが必要です。しかし、それを自分だけで何も解決することは出来ません。神様の助けが必要となります。



2. 罪への傾きと戦う： 自分を愛するためには、「自分自身の中にある罪への傾きと戦う」ことが必要です。罪とは、自分の中にある自己中心性への傾きです。私たちは、その罪への傾きに慣れていますが、それが私たちの本当の自分だと思ってしまう。私たちの本当の自分は、一番深い所（潜在意識も含む）にあります。私たちの一番深い望みは、神様の望みなのです。その罪への傾きに毒されている自分は、本来の自分ではなく偽りの自分なのです。聖パウロが語っているように、「もし、わたしが望まないことをしているとすれば、それをしているのは、もはや私ではなく、わたしの内に住んでいる罪なのです」（ローマ 7:20）。イエスは、私

たちが自分を愛するためには、「その偽の部分捨てなければならない」と、言われました。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」（マタイ 16:24）。ですから、もし自分を愛しているなら、私たちは、偽の自分を捨てるはずだけではなく、聖人たちのよ

うに毎日体験している十字架を受け入れて、それを神様に捧げます。自分の罪の贖いや全ての人の罪の贖いとして。

3. 神の目で見る： 自分を愛するためには、神様が私たちを見られている目で自分自身を見ることが出来るようにと、その恵みを頼まなければなりません。それは、自分の弱点の克服のためだけではなく、自分に与えられた賜物を認めるためです。私たちは、神様にとって尊い子供達なのです。しかし、悪い者（悪魔）は、「あなたは悪い」「取るに足りない者」と囁き、信じ込ませたいのです。



4. 誘惑に抵抗する： 自分を愛するためには、私たちは誘惑に抵抗しなければなりません。誘惑の種類は、二つあります。それは、「罪を犯す誘惑」と「悪くないことをする誘惑」です。私たちは、罪を犯す誘惑に抵抗する必要があります。例えば、傲慢・偽善・虚飾・閉じた心（恐れや偏見等によって）・富への執着・肉欲・恨み・復讐心などです。悪くないと思うことをするための誘惑にも抵抗しなければなりません。例えば、「今日は、忙しいから祈る時間がない」等です。悪い者は、私達にとって一番良いことを拒否して、2番目に良い事を選んで欲しいのです。

5. 柔和や謙遜の心を祈る： 自分を愛するためには、私たちはイエスのように柔和と謙遜を身につけなければなりません。イエスは、「心の貧しい人々は幸いである。天の国はその人たちのものである。柔和な人々は幸いである。その人たちは地を受け継ぐ。憐れみ深い人々は幸いである。その人たちは憐れみを受ける。心の清い人々は幸いである。その人たちは神を見る」（マタイ 5:3,5,7,8）。「わたしに学びなさい。わたしは、柔和で謙遜な者だから」（マタイ 11:29）。「自分を低くして、子供のようにになる人が、天の国でいちばん偉いのだ」（マタイ 18:4）と言われました。

6. 神の祝福を祈る： 自分を愛するためには、神様のすべての恵みを頂けるようにと、祈らなければなりません。イエスは、私たちにたくさんの恵みを与えたいのです。自分自身のため、また、他の人々のために。イエスは、それらを私たちに与えることができるように、その恵みを求めて祈って欲しいのです。神は、私たちを通して沢山人々を祝福したいんです。ですから、私たちは、イエスが私たちに与えたいと望んでおられる全ての恵みを求める心の為にも祈らなければなりません。私たちは、「神様の恵みを望む飢え渴く心」を求めて祈らなければなりません。イエスは、「渴いている人は、誰でも、わたしの所に来て、飲みなさい」（ヨハネ 7:37）と言われました。また、マリア様は、「神は、飢えた人を善いもので満たし、富める者を空腹のまま追い返されます」（ルカ 1:53）と言われました。

7. 聴いて従う： 自分を愛するためには、聖霊が私たちに話されていることに耳を傾けなければなりません。聖霊の促しに従うことは、聖性の泉だからです。詩編95番でこう読みます。「今日こそ、あなたがたは、主の声を聴くがよい。心を頑なにしてはならない」（詩 95:7-8）。イエスが言われたように、「神に属している人は、神の声に聴き従う」（ヨハネ 8:47）のです。神様の命が、私たちを通して人々の中に流れるようになればなるほど、私たちは、神様ようになります。

◆ 2番目の掟



2番目の掟は、他の人々を愛することについてです。イエスは、人々をどのように愛すればよいかを3つの方法で教えて下さいました。「隣人を自分のように愛しなさい」（マタイ 10:39）。「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」（ルカ 6:31）。「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」（ヨハネ 15:12）。

人々を愛する為には、神様の目をもって人々を見なければなりません。神様は、将来完成する建物（成長した靈魂）を見られますが、私たちは、ただ人々の“今”土台と工事中の建物を見てしまいます。全ての人は、神様の子供達です。そして神様は、一人一人の子どもを愛おしくて愛しておられます。もし、誰かを愛しているならば、その人が愛している人々に対して愛しく思うことは、自然なことです。もし、神様を愛しているならば、神様が愛している全ての人々を愛します。もし、神様を愛しているならば、私達は小さな者・貧しい者・苦しんでいる者・社会が排斥している者を愛します。具体的に、どのように他の人々を愛したら良いのでしょうか？イエスは、様々な方法を教えてくださいましたが、私は6つの方法についてお話ししたいと思います。

1. 赦す： まず、人々を愛しているならば、彼らが私たちを傷つけた時には彼らを赦します。神様を愛している人は、神様の目でその人を見ます。「その人が私を傷つけた時、その人は傷がある故に不自由でした。その人は、その傷と弱さで縛られていました。ですから、実際に私を傷つけたものは、その人自身ではなくて、その人の傷と罪深さが私を傷つけたと考えることが出来ます。」聖パウロの言葉を

もう一度引用すれば、「もし、わたしが望まないことをしているとすれば、それをしているのは、もはやわたしではなく、わたしの内に住んでいる罪なのです」（ローマ 7:20）。ですから、私を傷つけたものは、その人自身ではなく、その人の中にある罪なのです。私が受けた傷は、その人からの「助けてください」という心からの叫び声でした。神様は、その傷が起こるように許されました。なぜでしょうか？それは、私がある人のために祈るようにです。その人は、私の祈りを通してしか救われない可能性があるかもしれませんが、私たちに対立している人に関して、イエスは次のように言われました。「敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしてください。悪口を言う者に祝福を祈り、あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい」（ルカ 6:27~28）。聖パウロは、これも付け加えました。「あなたの敵が飢えていたら食べさせ、渴いていたら飲ませよ。悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい」（ローマ 12:20~21）。

2. 裁かない： もし、人々を愛しているならば、誰をも裁きません。なぜなら、その人の中で何が起きているか分からないからです。むしろ、私たちがその人に対して「同情する心」の恩恵を祈り求めます。イエスが言われたように「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。人を裁くな。そうすれば、あなたがたも裁かれることがない。人を罪人だと決めるな。そうすれば、あなたがたも罪人だと決められることがない。赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦される。与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる」（ルカ 6:36~38）。

3. 苦しんでいる者を助ける： 人々を愛しているならば、苦しんでいる人を見ると私たちは出来る限り助けるでしょう。現世においての苦しみは辛いですが、煉獄にいる兄妹姉妹の苦しみはもっと酷いものです。ですから、人々を愛しているならば、煉獄にいる靈魂たちのために毎日祈ります。

4. 人々が地獄に行かないように祈る： 人々を愛しているならば、私たちは誰一人地獄に行つて欲しくないはずで、86年前にイエスは私たちに、人々を地獄に行くことから救うための祈りを教えられました。その祈りは、「神のいつくしみのチャプレット」と呼ばれています。死にかけている状態にある人々のために、その祈りを唱えれば、イエスは彼らに回心の恩恵と平穩な死の恩恵を与えることを約束されます。その時まで彼らが常習的な罪を犯し、赦しを願うことができない状態であっても、彼らが自由に神を選ぶか神を拒むかの恩恵を得ることができます。私たちは、世界中で死にかけている人のためにその5分の祈りを唱えることができます。もし、神に赦しを願うことができない状態で死にかけている人々のためにチャプレットを3回唱えれば、私たちはイエスが地獄に行くはずの3人を救うことを助けることとなります。何人かは、その恩恵を受け入れることを拒むかもしれませんが、しかも、誰も同意無く、意に反して天国に入ることはありません。しかし、主は、誰がその恩恵を拒むか前もって知っておられますので、拒まない人にその恩恵を授けることは疑う余地がありません。ですから、人々を愛して、その祈りを毎日3回唱えるならば、私たちは1年でイエスが地獄に行くはずの1000人以上の人々を救うのを助けることができます。



5. 天使たちと聖人たちの助けを頼む： 人々を愛しているならば、天国にいる私たちの友人たちや兄弟たちに助けを頼むでしょう。つまり、天使たちと聖人たちに。彼らは、私たちが助けたいので、私たちの祈りを待ち望んでいます。特に、全ての恩恵の仲介者であるマリア様が。聖母マリアは、私たちの人生の中で自由にお母さんとして働くことができるように、私たちが自分自身を彼女の汚れなき御心への奉獻を頼んでいます。マリア様は特に、私たちがロザリオの祈りを唱えるように頼んでいます。今のこの時代、ロザリオの祈りは、典礼の祈り以外で一番重要な祈りです。

6. 他者のために賜物を使う： 人々を愛しているならば、人々の為に私たちの全ての恵みと賜物を使うでしょう。私たちの賜物・才能・能力は、人々のためです。そして、イエス様が言われたように、私たちが何かを人々の為にした時、イエスにもしたことになります。「これらのわたしの兄弟、しかも最も小さな者の一人にしたのは、わたしにしたのである」（マタイ 25:40）と。



◆ 1 番目の掟

第一の掟は、「神様を愛すること」についてです。聖ヨハネは、その第一の手紙で、どうして私たちが神を愛するのかを説明しています。「私たちが命を受けるように、神は独り子を世に遣わされた。ここに神の愛がわたしたちに現されたのです。私たちが神を愛するのは、神がまず、私たちが愛してくださったからです」（1ヨハネ 4:9,19）と。



もし、誰かを愛しているならば、その人と一緒に時間を過ごしたいと望みます。もし、誰かを愛しているならば、その人との親しい関わりを持ちたいと望みます。もし、誰かを愛しているならば、その人に自分自身の全てを与えたいと望みます。神様は、私たちに「それらのことを望む」と言われました。つまり、神は、私たちと一緒に住み、親しく関わり、私たちにご自身を完全に与えること望まれます。そのために、神様は、私たちを創造されました。神様が専ら望まれていることは、私たちが神様の愛を受け取ることが出来るように、私たちの心を開くことなのです。もし、私たちが心を開くならば、神様は聖霊で私たちを満たすことができます。そう

することで、だんだん私たちは神様ようになります。神様を愛することは、神様の愛に応えることです。神様を愛することは、祈りで神様と交わることです。特に、聖体礼拝の祈りを通して。神様を愛することは、どんなことが起こっても神様を信頼することです。また、神様を愛することは、神様に聴いて従うことです。そうすると、私たちは神様の友人や協力者になります。カテキズムに書いてあるように、聴いて従うことは、「主人が何をしているかを知らない僕の状態から、キリストの友の状態に移させます」（カテキズム1972）。神様は、子供たちを望まれます。神様は、友人たちを望まれます。神様は、配偶者たちを望まれます。そして、もし、神様を愛しているならば、私たちも神様が希望されていることを望むはずで

私たちは、どのように神様の愛に応えることができるのでしょうか？私たちが応える方法は、各自の使命や賜物によって違います。それでは、どのように神が私たちを「聖なる者」となるように招かれているのでしょうか？

◆ 福者カルロ・アクティス

皆さんは、現代の一人の聖人について聞いたことがあるかもしれません：福者カルロ・アクティスです。彼は、2006年に15歳で亡くなりました。教皇様は、2020年に彼を列福しました。カルロは、神様からたくさんの恵みを受けました。彼が4歳の時に祖母が亡くなりましたが、夢の中で現れて祈りを頼みました。その時に彼の両親が信仰を実践していなかったのに、8歳のカルロは、初聖体を受けることを頼みました。彼は、幼い頃から深い信仰心を持っていました。ご聖体の秘跡への愛や聖母マリアへの崇敬が深い子供でした。毎日、彼はミサに与った後にご聖体礼拝を行い、ロザリオを唱えました。学校では、困難な状況にいる仲間を擁護しました。ホームレスを支援するボランティア活動に参加して、初聖体や堅信を受ける子どもたちにカテキズムを教えました。コンピューターやインターネットの専門知識に優れていたため、彼は世界のご聖体の奇跡に関するウェブサイトを作成しました。また、教会が認めている「聖母マリアのご出現」のウェブサイトも作成しました。彼が白血病を発症した時、自分の苦しみを教皇様と教会のために捧げました。亡くなった時には、希望していたアッシジに葬られました。後に、彼の遺体が腐敗していない状態であることがわかったため、聖ベルナデッタのようにカルロの遺体は硝子の棺の中に収められています。彼の目標は、「聖性」でした。彼は、「聖なる者になりたい」と思う人のために8つの祈禱のリストを作成しました。

1. 心から聖人になることを望み、もし自分がまだ聖人になることを望んでいないなら、あなたはそれを強く主に求めること。
2. 毎日、ミサ聖祭に与り、聖体拝領をしようとする事。
3. 毎日、ロザリオを唱えることを忘れないこと。
4. 毎日、聖書の一節を読むこと。
5. 出来るだけイエズスが本当におられる聖櫃の前で聖体礼拝の時間を作る事。すると、あなたの聖性のレベルが驚くほど高まるでしょう。
6. 出来るだけ、毎週赦しの秘跡を受け、小罪をも告白すること。
7. 常に主と聖母に「聖なる者となる」決意を捧げ信仰の花が開くように、他者を助けること。
8. 絶えず守護の天使に助けを求めること。



聖性は、「神が私たちを自由に愛させるように心を開くこと」です。聖性は、「神の愛に応えること」です。聖性は、「神が私たちを通して人々を愛させること」です。